

# 日本語学習者の「語り」から見えてくる習熟度

—語彙・時制・視点—

南 雅彦 (サンフランシスコ州立大学)

## 1. はじめに

外国語学習者にとって、目標言語でコミュニケーションを十分に達成することは難しい。これは伝達道具としての言語能力が「目的を成し遂げるには限られている」という現実直面してしまうからである。与えられたタスクが語り（ナラティブ）となると至難の業となるのかもしれない。たとえば、母語話者そして日本語学習者はどのような談話構造を用いて架空の出来事（フィクション）や体験談（ノンフィクション）を産出するのだろうか。国立国語研究所で開発された「多言語母語の学習者コーパス」(International Corpus of Japanese as a Second Language) を用いて『優れた語り』とは何かを考察する。

### 1.1 語彙と習熟度

- SPOT (Simple Performance-Oriented Test)
  - 「言語運用力」の測定 (熟達度テスト)
- J-CAT (Japanese Computerized Adaptive Test)
  - コンピュータによる日本語能力自動判定テスト (聴解・語彙・文法・読解)
- 被験者 (「多言語母語の学習者コーパス (I-JAS)」より)
  - 日本語母語話者 50 名 (JJJ)
  - 中国語話者 100 名 (中国 CCM 50 名, 台湾 CCT 50 名)
  - 英語話者 50 名 (オーストラリア EAU 23 名, アメリカ EUS 27 名)
- I-JAS ストーリーテリング タスク 1 (ピクニック) タスク 2 (鍵)
  - 「語彙」と「言語運用力」には正の相関が認められた。  
CCM  $r = .64, p < .0001$  CCT  $r = .65, p < .0001$   
EAU  $r = .71, p < .0001$  EUS  $r = .79, p < .0001$
  - つまり、語彙が多ければ多いほど言語運用力が高い傾向が認められた。

## 2. 言語表現：ナラティブ（語り）とは

ナラティブ（語り）とは何だろうか。Labov (1972) に従えば、「体験談を含めた話で、一連の出来事を時間の流れに沿って、より遠い過去の出来事から現在により近い過去の出来事へと語る行為」となる。つまり、時間的に異なる 2 点、もしくはそれ以上の点から成り立っており、とりわけ、体験談（1 人称の語り）では「実際に起きた事件（過去の経験）をその事件の起きた時間的経過・順序に従って取捨選択しながら、言語表現すること」と

定義できよう。単に記憶を再構成し経験をそのまま再現するだけではない。

## 2.1 語りをどのように引き出すのか：タスクからジャンルとトピック

1. スクリプト（行為系列表象：出来事の系列）
  - 物語産出のテンプレート！文化スクリプトを土台に3歳児も語りを行う。
2. 体験談・個人的経験物語
  - “Were you ever in a situation where you were in serious danger of being killed?”（死ぬほど危険な目にあったことがあるか）（Labov, 1972, p. 363）
3. 4コマ漫画・5コマ漫画（picture series: Berman, 2004）
  - トピック例 I-JAS タスク1（ピクニック） タスク2（鍵）
4. 絵画ストーリー
  - 『カエル君、どこにいるの? (Frog, where are you?) 』（Mayer, 1969）  
24場面からなる絵画ストーリー  
「形式（form）と機能（function）」の結びつき、照応表現の結束性（referential cohesion）など（e.g., Berman & Slobin, 1994）
5. 無声映画を見てのストーリーテリング
  - “Pear story” 7分間の無声映画を見た後、ストーリーを構築（再構築法）（e.g., Chafe, 1980）

## 3. 巨視的な一貫性（coherence）と微視的な結束性（cohesion）

言語使用に関する研究や言語構造と社会的コンテクスト（文脈）との関係を研究する分野である語用論の立場から、「テキスト」と「語り」、つまり、広範な意味での「ディスコース」機能に焦点を当てることは重要である。語りにおける論理展開のまとまり、すなわち「一貫性（coherence）」と、節や文の相互関係、話の連鎖的構造（例：接続表現・時制・態）における場面同士の「結束性（cohesion）」は、語り手・書き手が聞き手・読み手に話の内容を適切かつ効果的に明示するための語りの双子のエンジンの役割を果たしている。これは、語りのようなコミュニケーションとしての言語では、巨視的（マクロ）でグローバルなテキスト・レベルと微視的（ミクロ）でローカルな文レベルの有機的、機能的な関係が成り立っていないからである。

- 読み手・聞き手に的確に、効果的に話を明示するために
  - 一貫性（coherence）
    - ✓ グローバルなテキスト・レベル，論理展開のまとまり
  - 結束性（cohesion）
    - ✓ ローカルな節や文の相互関係，話の連鎖構造（例：接続表現・時制・態）

### 3.1 語りの長さ<sup>1</sup>

- タスク1（ピクニック）：グループ間に統計的な有意差あり  $F(3, 146) = 7.68, p < .0001$ 
  - （分散分析後の事後比較）CCT（台湾）の語りの長さは，CCM（中国），EAU（オーストラリア），EUS（アメリカ）よりも長く，その差は統計的に有意。
- タスク2（鍵）：グループ間に統計的な有意差あり  $F(3, 146) = 4.79, p < .01$

<sup>1</sup> 「語りの長さ」は，ミクロ構造として分析すべきだが，ここでは一貫性を探る準備として提示する。

- (分散分析後の事後比較) EUS (アメリカ) の語りの長さは, CCT (台湾), EAU (オーストラリア) よりも短く, その差は統計的に有意。
- どちらかのストーリーを長く語る語り手はもう一つのストーリーも長く語る傾向にあり, どちらかのストーリーを短く語る語り手はもう一つのストーリーも短く語る傾向。
- EUS (アメリカ) では, 言語運用力 (SPOT) の高い語り手ほど長いストーリーを語る傾向にあり, とりわけ, タスク 2 (鍵) では, 日本語能力 (J-CAT 聴解・文法) が高い語り手ほど長いストーリーを語る傾向が認められた。

### 3.2 ナラティブの構成要素と物語構成過程 (Labov, 1972; Peterson & McCabe, 1983)

要旨・導入部 (abstract)	<p>➤ 話の最初に, 何についての話なのかを聞き手に伝える (これからどんな話を語ろうとするのか)</p> <p>例: 今朝, ケンさんは, うちを出た時, すごく忙しく, 急いで, うちの鍵を忘れてしまいました。(CCM27 タスク 2)</p>
設定・方向付け (orientation)	<p>➤ 誰が, いつ, どこで, 何を (していたか) (時, 場所, 登場人物など背景の設定) ← 後景 (背景) 描写</p> <p>例: ケンとマリは一匹の犬を飼っています。(CCT15 タスク 1) 真夜中十二時でした。(CCM20 タスク 2)</p>
出来事・複雑化 (complication)	<p>➤ 起きた事件は具体的に何なのか ← 前景描写</p> <p>例: ケンとマリは公園へ行きました。(CCT28 タスク 1)</p>
評価 (evaluation)	<p>➤ 話し手の気持ちはどうだったのか, 話の意味は何なのか ← 後景 (背景) 描写</p> <p>例: 二人は, なんか, がっかりしました。(CCT07 タスク 1) あいにく, ケンさんはうちの鍵を持っていませんでした。 (CCM35 タスク 2)</p>
解決・結果 (resolution)	<p>➤ 事件が最高潮 (感情的頂点) を迎えた後, 結局どうなったのか</p> <p>例: 最後は, ケンは警官に説明し, 誤解をやぶりました。 (CCT61 タスク 2)</p>
結語・終結 (coda)	<p>➤ 話の最後の締めくくりの言葉</p> <p>例: 以上です。(CCT22 タスク 2) めでたし, めでたし。(CCT16 タスク 2)</p>
引用節 (reported speech)	<p>➤ 誰かが言ったことを伝える ← 修辭的技法</p> <p>例: 「なんで家で用意したピクニックの食べ物が, 全部なくなったの?」 とマリが言いました。(CCT18 タスク 1) 警官は, 「何をしていますか」とケンに聞きました。(CCT02 タスク 2)</p>

- 階層性のある語りの順序 (higher order hierarchical sequencing)

設定・方向付け→出来事・複雑化→評価→解決・結果→結語・終結

- 「語り」とは、出来事ばかりでなく、「なぜ語りたいのか」という理由を述べたり（評価）、話の状況（設定）を詳しく付け加える作業だと言えよう。
- 話題：言及機能（referential function）
  - 出来事・複雑化（complicating action）：過去の経験で、現実起こった出来事をそれと同じ順序で言語表現に言い換えて表現（時系列：前景描写）← 語りの骨格
  - 設定（orientation）（非時系列：後景描写 [Hopper & Thompson, 1980]）← 語りの肉付け
- 評価機能（affective or evaluative function）
  - 評価（Evaluation）（非時系列：後景描写）← 語りの肉付け

### 3.4 語りの構造：Peterson & McCabe (1983)

- Classic narrative
  - 典型的、理想的なナラティブ構造
- Ending-at-the-high-point narrative
  - 語り手は「感情的頂点」に至るまでの語りを行うが、「感情的頂点」で語りは終了
- Chronological narrative
  - 時系列展開のみの語り
- Script narrative
  - スクリプト型の語り

## 4. 微視的様相・結束性（cohesion）

一貫性と結束性は、「優れた語り」を作り上げる伝達能力の指標である。どのような語りが聞き手・読み手（受信者）にとって理解しやすいのか、共有できるのかという問題は、聞いている、もしくは読んでいる時点で、何がトピック（話題）なのかを受信者が理解できていることが重要な役割を果たしている。したがって、語りが容易に理解できるかどうかは、話題がどのように導入され、どのように維持されているかということと密接に関連している。ここでは、語り手が時制（テンス）と態（ヴォイス）をどのように使いながら、とりわけ、どのような視点から事象を眺めながらローカル・レベルでの結束性を作り上げているのかを、質的（定性的）研究と量的（定量的）研究を用いて検証する。

### 4.1 時制から眺めた視点（視座）の問題：可動的か固定的か

- 時制
  - 話し言葉（音声言語としてのオーラル・ナラティブ：口頭産出の語り）
  - 書き言葉（書記言語）日本語学習者の作文・小説・英語翻訳
- 3ドメインからなるマトリックスとしての時制形式（山本 2016）
  - 【時間】 現在，過去，未来
  - 【判断】 体験を成立させる対象への認識態度
  - 【心的距離】 話者にとっての対象の位置

- 日英語の時制
- 小説に認められる時制現象（日英翻訳）

川端康成『伊豆の踊り子』（1926）

【1 人称形式の語り「語り手」と登場人物「私」が同一人物】

仄暗い湯殿の奥から、突然裸の女が走り出して来たかと思ふと、脱衣場の突鼻に川岸へ飛び下りさうな恰好で立ち、両手を一ぱいに伸して何か叫んでゐる。手拭もない真裸だ。それが踊子だった。若桐のやうに足のよく伸びた白い裸身を眺めて、私は心に清水を感じ、ほうつと深い息を吐いてから、ことこと笑った。子供なんだ。私達を見つけた喜びで真裸のまま日の光の中に飛び出し、爪先きで背一ぱいに伸び上る程に子供なんだ。私は朗らかな喜びでことこと笑ひ續けた。頭が拭はれたやうに澄んで来た。微笑がいつまでもとまらなかつた。

One small figure ran out into the sunlight and stood for a moment at the edge of the platform calling something to us, arms raised as though for a plunge into the river. It was the little dancer. I looked at her, at the young legs, at the sculptured white body, and suddenly a draught of fresh water seemed to wash over my heart. I laughed happily. She was a child, a mere child, a child who could run out naked into the sun and stand there on her tiptoes in her delight at seeing a friend. I laughed on, a soft, happy laugh. It was as though a layer of dust had been cleared from my head. And I laughed on and on.

(*The Izu Dancer* Edward George Seidensticker)

- 日本語では時制選択の基準となる視点が可動的で、英語では基本的に固定的である。
- 日本語で書かれた小説やエッセイではル形とタ形が混在しても自然な場合が多いが、英語では小説でも時制混交は通常可能ではない。（南 2009, 2017）
- 日本語母語話者の語り（タスク 1：ピクニック）【日本語母語話者 50 名（JJJ）より】  
 【3 人称形式の語り 客体化（objectification）された世界】  
今日はこれからピクニックに行く予定です。（後景描写 → ト書き）  
 その様子を、ペットのポチが遠くから見ていました。  
 もちろんポチはお留守番なのですが、  
 ケンとマリが今日の地図を見ている間に、  
 ポチはバスケットの中にこっそり入ってしまいました。  
そうとは知らず、ケンとマリはピクニックに出かけます。（後景描写 → ト書き）  
 見晴らしのよい所でお弁当を食べようとした瞬間、バスケットの中から飛び出して来たのはポチでした。  
 残念なことに、二人のお昼ご飯のサンドイッチは、  
 ポチに食べられてしまっていたのでした。（主観化 subjectification）

(JJJ08)

#### 4.2 能動態・受動態と視点をどう捉えるか

- 受動態と動詞（他動詞のみか自動詞でも受動態が可能か）
  - 雨に降られた。I was fallen by rain. => I was rained on.
  - ペットの犬に死なれた。I was died by my pet dog. => My pet dog died on me.
- 現代文では文章語的表現，または改まった表現をする場合：  
（～が）Vられる〔自発の受身形〕（意思と関係なく，ひとりでにその状態になる）
  - ✓ 学生時代のことが懐かしく思い出される。
  - ✓ あの人にひどいことを言ってしまったことが悔やまれる。
  - ✓ 性格が性格だから，将来が案じられる。
- 日本語では受動態の生成が容易であり，感情移入の点からも受動態の方が自然：  
Vさせられる〔自発の使役受身形〕
  - ✓ 隣家の騒音に悩まされているが，どうしたらいいのだろう。
  - ✓ これは自分の人生，生き方を考えさせられる映画だ。
  - ✓ 間違いから学ぶことの大切さを感じさせられる。
- 日本語では，何らかの影響をこうむった人を主語にして，その人に起こった出来事を受動態で表現する。
- 主語省略と視点の問題

例：日英バイリンガル女兒 [11 歳, 1 ヶ月] (場面 15-17) 【3 人称形式の語り】

日本語：とちゅうでシカにあつて，シカのつのはさまれて，いけにほうりこまれて。

英語：They met a deer, and then the deer carry them, and dump them into the creek.



図1：絵画ストーリー『カエルくん，どこにいるの? (*Frog, where are you?*)』  
(Mayer, 1969) (場面15-17)

- 日本語での3人称の「音形のないゼロ代名詞」化は主人公（男の子）と語り手の結束性の強さ（距離感）を反映，すなわち主観的だと言えよう。
- 一方，成人中国語母語話者に語ってもらった場合，場面 15-17 では「シカ」が主語，すなわち，視座（視点）の位置はシカ。しかし，その前の場面 14 では「男の子」，その後の場面 18 では「男の子と犬」に視点がある。つまり，視点が移動している。

表 1：中国語母語話者の語りと視点の移動

場面	中国語母語話者の語り	主語（視点）
14	小男孩爬到大石头上，继续喊：青蛙你在哪里？	男の子
15	一只鹿用鹿角把小男孩顶了起来	シカ
16	鹿顶着小男孩，追着小狗，跑到一个悬崖旁边	シカ
17	一顶，把小男孩和小狗推下了悬崖	シカ
18	小男孩和小狗掉到了水里	男の子 犬

- 彭（2016: 38）「日本語が主観的な言語であり，視点が話し手（1 人称）に固定されやすいのに対して，中国語は客観的な言語であり，視点が移動しやすく，動作主体に置かれやすいというのが特徴的…」
- 木村（2014: 112）「空間認知において現場立脚型の視点を取りがちな日本語話者は，事態認知においても当事者的視点を取り，言わば「わが事」として事態を捉える傾向が強い。一方，空間認知において俯瞰型の視点を取りがちな中国語話者は，事態認知においても傍観者的な視点を取り，あたかもステージを見る観客のごとく，言わば「ひと事（他人事）」として事態を捉える傾向が強い」
- 山梨（2009: 83）「英語のような言語は標準的視点構成を基本とする言語であり，日本語は自己中心的視点構成を基本とする言語として位置づけられる」
- 文法的に誤りのない発話ができることは日本語に堪能である要因のひとつ。
- 日本語学習者（英語母語話者 EAU38）の語り（タスク 2：鍵）
 

だから，ケンさんは，自分のうちに入られなくて，  
残念でした。

ケンさんは，マリさんに，何回呼ばれても，答えがなくて，  
なぜなら，マリさんは，寝てしまった。

ケンさんは，二階建ての窓に入るようにした時，  
警官は，ケンさんを見て，叱られて，<sup>2</sup>

でも，マリさんが，その時に，もう一起きたから，  
警官に状況を説明してくれて，  
大丈夫でした。
- ✓ 文法的に正確なだけでも，たとえ受動態を使用しても，母語話者と同様に自然な発話が産出できるわけではない。
- ✓ 「視点」とはカメラ・アングルのようなもので，語り手がどのアングルから出来事を描写しているかを示しているが，たとえ同じ出来事を描写しても，視点が異なると何か不自然な感じがすることがある。

<sup>2</sup> たとえ受動態を使用しても，「叱られた」主体が誰なのか判然としない。

### 4.3 分析

- 日本語母語話者 (JJJ) 50 名
  - 日本語母語話者の語りでは、トピックに関わらず、受動態の使用頻度が高く、視点が主人公に固定される傾向が認められた。<sup>3</sup>
    - タスク 1 (ピクニック) 受動態使用者 40 名  $\chi^2(1, N=50) = 18.00, p < .0001$
    - タスク 2 (鍵) 受動態使用者 36 名  $\chi^2(1, N=50) = 9.68, p < .01$
- 中国語話者 (CCM 50 名 CCT 50 名)
  - CCM (中国) : 受動態の使用頻度はトピックによる。視点が移動するかどうかはトピック次第である。
    - タスク 1 (ピクニック) 受動態使用者 31 名  $\chi^2(1, N=50) = 2.88, p < .10$
    - タスク 2 (鍵) 能動態使用者 33 名  $\chi^2(1, N=50) = 5.12, p < .05$
  - CCT (台湾) : トピックに関わらず、能動態の使用頻度が高く、視点が移動しやすく、動作主体に置かれる傾向が認められた。
    - タスク 1 (ピクニック) 能動態使用者 32 名  $\chi^2(1, N=50) = 3.92, p < .05$
    - タスク 2 (鍵) 能動態使用者 30 名  $\chi^2(1, N=50) = 2.00, p = .16$
- 英語話者 (EAU 23 名 EUS 27 名)
  - EAU (オーストラリア) : トピックに関わらず、能動態の使用頻度が高く、視点が移動しやすく、動作主体に置かれる傾向が認められた。
    - タスク 1 (ピクニック) 能動態使用者 14 名  $\chi^2(1, N=23) = 1.09, p = .30$
    - タスク 2 (鍵) 能動態使用者 16 名  $\chi^2(1, N=23) = 3.52, p < .10$
  - EUS (アメリカ) : トピックに関わらず、能動態の使用頻度が高く、視点が移動しやすく、動作主体に置かれる傾向が認められた。
    - タスク 1 (ピクニック) 能動態使用者 24 名  $\chi^2(1, N=27) = 16.33, p < .0001$
    - タスク 2 (鍵) 能動態使用者 26 名  $\chi^2(1, N=27) = 23.15, p < .0001$

### 4.4 音声言語 (ストーリーテリング) と書記言語 (ストーリーライティング)

- ストーリーテリングでの誤りはストーリーライティングで改善されるのか?
  - 誤りが改善されない例  
バスケットの中のサンドイッチやーリングは、犬に食いました。(CCM02-ST1)  
→  
中の食べ物も犬に食いました、めちゃくちゃになりました。(CCM02-SW1)
  - 誤りが改善された例  
サンドイッチと林檎は全部、犬に食べました。(CCM28-ST1)

<sup>3</sup> 本調査では、意味的受け身、すなわち、動詞の受身形ばかりでなく、「見つかる」「捕まる」のように受身的な意味を持っている動詞の使用を含める。



→

持ってきたリンゴとサンドイッチも犬に食べられました。(CCM28-SW1)

- 回避ストラテジー（言い換え）語彙知識

バスケットを見ると、サンドイッチと林檎は、犬さん<sup>に</sup>、食べました。(EAU14-ST1)

→

バスケットの中でサンドイッチとりんごが少しだけあります。(EAU14-SW1)

食べ物が全部食べました。(EAU28-ST1)

→

バスケットの中を見てるとせっかくの準備したサンドイッチがだいなしになりました。  
(EAU28-SW1)

## 5. まとめ

ラボピアン内容分析モデルと関連して語り全体の「一貫性」調査と、語りに寄与する言語的デバイスの適切な使用としての「結束性」の調査は、テキストの表面に出現する言語要素が互いにどのように関わりあっているかという意味でどちらか一方を欠くことはできず、補完的役割を果たしている。とりわけ、ラボピアン内容分析モデルの主眼は、後景描写、なかでも語り手や登場人物の気持ちがどうだったのかを表現する「評価」だが、異なる文化を背景とする言語では、十分に「評価」を汲み取りきれない可能性がある。日本語母語話者の「共感度・感情移入」も「評価」だと考えられるが、そうした「共感度・感情移入」を理解するためには、「結束性」の調査が必須だろう。

- 時制：日本語でも英語でも、時制は心理的距離を示唆するマーカーとして使用される。
  - 視点の移動が日本語では可動的で感情移入が容易だが、英語では可動的ではない。
- 態：英語では、動作主体を表現する場合は、能動態の方が自然。
  - 日本語では受動態の生成が容易であり、感情移入の点からも受動態の方が自然。
  - 視点の移動が英語や中国語では可動的だが、日本語では可動的ではない。
  - しかしこれだけでは、表層的な議論に終始してしまう。
  - 過去・非過去、能動態・受動態ばかりでなく、「てしまう」の述語形式（例：「おまわりさんに見つけられてしまいました。」CCM35）に見られるように、（絵の中に描かれている）出来事を語り手が主観化している。
  - 日本語の語りで結束性のために優先されるのは、感情移入であり共感度だと考えられる。

結束性はときとしてローカル・レベルで比較的機械的な繋がりを示すことがあるが、一貫性はテキストのグローバル・レベルで筋が通っているかどうかを意味する。重要なことは、結束性と一貫性が語りの双子のエンジンとして機能していることである。双子のエンジンが果たしている役割を分析することで、ジャンル、トピック、音声言語、書記言語

など異なるコンテキストの語りから次に列挙する異なる能力を導き出せることが認識できよう：(1) 目標言語で使用できる文法や語彙の選択をフルに活用出来る言語的能力，(2) 異なるコミュニケーションの目的やディスコース機能に合わせ，異なる文法システムを取り入れる認知的能力，(3) (たとえば，過去形か非過去か，能動表現か受動表現かなど) 当該スピーチ・コミュニティで文化的に好まれる表現を選択する能力。したがって，物語の内容・構造ばかりでなく，言語的デバイスの適切な使用にも注意を払うことは，本稿で述べた第一言語 (L1) の発達や第二言語 (L2) の習得，とりわけ語りの研究を今後さらに推し進めるために重要である。

### 参考文献

- (1) 川端 康成 (1926) 「伊豆の踊り子」『文藝時代』1月号 (第3巻第1号) 「続伊豆の踊り子」『文藝時代』2月号 (第3巻第2号) .
- (2) 木村 英樹 (2014) 「こと・ころ・ことば—現実をことばにする視点—」唐沢 かおり・林 徹 (編) 『人文知1心と言葉の迷宮』 pp. 97–118 東京大学出版会.
- (3) 彭 広陸 (2016) 「日中両語のヴォイスに見られる視点のあり方」小野 正樹・李 奇楠 (編) 『言語の主観性』 pp. 35–51 くろしお出版.
- (4) 南 雅彦 (2009) 『言語と文化：言語学から読み解くことばのバリエーション』くろしお出版.
- (5) 南 雅彦 (2017) 『社会志向の言語学：豊富な実例と実証研究から学ぶ』くろしお出版.
- (6) 山梨 正明 (2009) 『認知構文論—文法のゲシュタルト性—』大修館.
- (7) 山本 雅子 (2016) 第4章「語りの語用論」小山哲春・甲田直美・山本雅子 (編) 『認知語用論』くろしお出版.
- (8) Berman, R. A. (2004). The role of context in developing narrative abilities. In S. Strömquist and L. Verhoeven (Eds.), *Relating events in narrative, Volume 2: Typological and contextual perspectives* (pp. 261–280). Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum Associates.
- (9) Berman, R. A., & Slobin, D. I. (1994). *Relating events in narrative: A crosslinguistic developmental study*. Hillsdale, NJ: Lawrence Erlbaum Associates.
- (10) Chafe, W. (1980). *The pear stories: Cognitive, cultural, and linguistic aspects of narrative production*. Norwood, NJ: Ablex.
- (11) Hopper, P., & Thompson, S. (1980). Transitivity in grammar and discourse. *Language*, 56(2), 251–299.
- (12) Labov, W. (1972). *Language in the inner city: Studies in the Black English vernacular*. Philadelphia, PA: University of Pennsylvania Press.
- (13) Mayer, M. (1969). *Frog, where are you?* New York: Dial Press.
- (14) Peterson, C., & McCabe, M. (1983). *Developmental psycholinguistics: Three ways of looking at a child's narrative*. New York: Plenum.